

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		PARCウィル大東			公表日		2026年 2月 13日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童の特性や療育の質を考え、一度に受け入れる人数を調整している	スペースはあっても職員が足りず、定員を増やせない		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		転倒や事故がないように受け入れ人数を調整している	急な欠勤があると人員不足となり最低基準ギリギリになってしまう		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動スペースに色つきのジョイントマットを設置し分かりやすいようにしている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		トイレや脱衣所にベッドを設置し、着替えや体おむつ交換時にプライバシーを確保できるようにしている。	ご利用児が増えた際には、必要に応じてパーティション等を活用し、個別スペースを確保できるよう環境調整を検討している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援計画の目標設定や振り返りを、全職員で共有し、改善点を話し合う機会を設けている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回の保護者向け評価表を実施し、支援内容・環境・職員対応などについて意見を収集している。	評価表の回答率が安定せず、意見が偏ることがある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な職員会議や業務内に、支援内容・環境整備・安全面などについて意見交換の場を設けている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		個別支援計画に基づき、子どもの発達段階や特性に応じた支援プログラムを作成している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメント結果を職員間で共有し、複数の視点からニーズを分析するようにしている。	アセスメントの時間確保が難しい。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画を作成後、全職員が閲覧できるようファイルで管理している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の活動や自由遊びの中での行動観察を行い、フォーマルな検査だけでは捉えきれない特性や強みを把握している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別支援計画の目標をもとに、活動内容が適切に反映されるよう、定期的にミーティングを実施している。	休校日などは十分な話し合いの時間が確保できず、担当者中心の立案になりがちな場面がある。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事・テーマ活動・感覚遊び・運動遊び・制作などを行っている。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画の目標に基づき、個別で取り組むべき課題と、集団で経験させたい活動を分けるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		子どもの体調や情緒面の変化、前回の様子などを職員間で確認し、支援の役割分担を明確にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		日々の支援の中で職員同士がこまめに情報共有を行い、子どもの様子や気づいた点を常に確認できるよう工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の活動や子どもの様子を記録し、職員間で共有することを徹底している。	記録をもとにした振り返りの場を定期的に設け、支援改善につなげる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングでは、子どもの発達状況・行動の変化・保護者の意向を確認している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議前に職員同士で情報を整理し、子どもの発達状況・行動面・家庭での様子などを共有したうえで参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援専門員との連携を密にし、サービス担当者会議にも積極的に参加している。また保育所等訪問支援も行い情報の共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		開設間もないため就学前施設との連携実績はまだないが、今後に備えて連携方法や情報共有の仕組みを整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		ご利用時の状態をお伝えしたり、モニタリング時には見学にも来ていただき連携をとっている。またサービス担当者会議にも積極的に参加している。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		職員数が少なく、外部交流の準備に負担がかかりやすい。人員が整い次第地域とのつながりづくりを進めていきたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ご利用時の写真や活動内容を具体的に記録し共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			個別相談の機会や保護者同士が情報交換できる場をつくる必要性がある。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		職員数が少なく、準備に負担がかかりやすい。人員が整い保護者会等の機会を設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月PARCウィル便りを発行し活動概要や行事予定を発信している。	SNSでの発信も検討し、保護者が目にしやすいよう工夫する必要がある
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		職員数が少なく、外部交流の準備に負担がかかりやすい。人員が整い次第地域とのつながりづくりを進めていきたい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			契約時に安全計画について説明しているが、定期的に内容を確認、周知することが必要である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		再発防止の為全事業所で状況の確認、対応策などを検討し、職員への伝達も行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			